

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 50

四国三郎吉野川今昔

高知県 大川村長

ごうだ しろろう
合田 司郎



清水を満々と貯えて流れ下る大河吉野川の源流域である大川村は、その一昔前では特に清流と呼ぶにふさわしく、数多くの溪流を集めて流れ下っていた。

幼少の頃は川に親しみ、水泳などもその川によって修得し、魚採りなども自然に身についた。天然鮎の遡上も多く、百匁の大物も珍しくなかったし、鰻などもビール瓶太のものも採れ、夕暮れ近くには川岸近くでハヤ釣りを楽しむ風情も又一幅の絵画を見る想いでもあった。

昭和三十年代より四国総合開発の名の下、早明浦ダム計画が議論され昭和四十二年、本格着工、昭和四十八年完成し、吉野川の利水・治水の恩恵

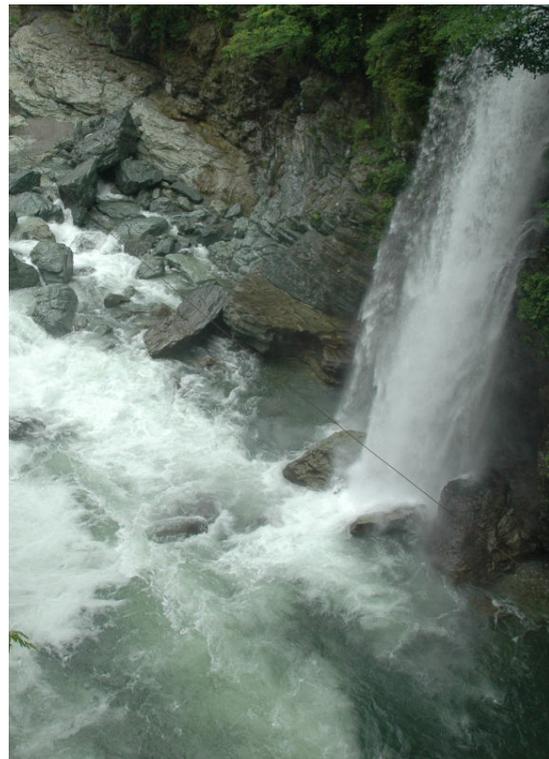
を受ける流域は飛躍的に拡大された。しかしながらダムによって魚族の生態系は一変し、既住の魚は姿を消し外来魚の横行で川遊びまでも根底から変わった。

幼少期の懐かしい思い出は、筆舌では尽くせないが、無数の想いが走馬燈の如く蘇る。

昔の川が良かったと呟く者は私だけではない。しかし水の世紀、環境の世紀と言われる昨今、水は天の配財でもあり時に大洪水、大濁水をもたらせるが、水源地域・利水地域の別なく四国三郎・吉野川を大切に利することを切に想う今日この頃である。



村道長沢川口線吉野川橋から吉野川下流を望む



村道長沢川口線吉野川橋から銚子口を望む